

アークフラッシュ施工された老人施設 6年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> 新着施工写真を更新いたしました

SARS が再び!!!

<< 施工報告 >>



秋田県ふただ歯科クリニック(メロニーハウス)

<< 感染症情報 >>

<< インフルエンザ >>

東京慈恵会医科大学付属青戸病院(東京都葛飾区)内で1月中旬から、患者と看護師計21人がインフルエンザに感染し、患者2人が死亡していたことが13日、分かった。

死亡した患者1人については、院内の感染対策指針で推奨されている治療薬の予防投与が行われていなかった。

同病院によると、院内で感染が広がり始めたのは1月17日。今月6日までに、3病棟で患者16人、看護師5人が感染した。

同病院の感染対策指針は、感染が確認された場合、「同室患者については(特にハイリスク患者については)抗インフルエンザ薬投与を考慮する」としている。しかし、1月31日に発症が確認され、今月2日に死亡した86歳の男性患者については、同室の患者の感染が確認された後も抗インフルエンザ薬は予防投与されなかった。

<< ノロウイルス >>

大館市立総合病院(武内俊院長)で入院中の男性患者2人がノロウイルスに感染し、ほかにも既に退院した1人を含む11人の入院患者が下痢やおう吐を訴え、感染の疑いがあることが分かった。重症者はないという。13人はいずれも6階病棟に入院していたこ

とから、同病院は院内感染の可能性があると見て6階病棟を出入り禁止とし、消毒作業をしている。

武内院長によると、眼科に入院中の71歳と61歳の男性患者が7～8日に下痢を訴え、検便で10日にノロウイルスが検出された。病院で調べたところ、同じ階の60代～80代の入院患者8人も3日以降、おう吐や下痢などを起こしていた。また10日夕～11日に新たに3人が発症した。

病院は8日までノロウイルスの集団感染を疑わず、対策を取らなかった。武内院長は「もっと早く対応していれば、感染拡大は防げたかもしれない」としている。

後悔は後の祭り、備えよ常に！！

新潟県阿賀町津川の特別養護老人ホーム「東蒲の里」で、入所者と職員計24人(12日現在)がノロウイルスに集団感染し、うち同町の女性入所者(96)が死亡していたことが13日、明らかになった。残る患者のうち入所者3人が入院中だが、快方に向かっているという。

同ホームなどによると、今月3日、入所者2人がおう吐などの症状を訴えたため、隔離したが、その後も他の入所者や職員が似た症状を発症。県新津保健所が患者の便を調べ、同ウイルスを検出した。

死亡した女性は寝たきり状態で、管で栄養補給していたが、10日夕に同ウイルスによるとみられるおう吐や下痢の症状を発症し、11日未明に亡くなったという。

同ホームの小池正則施設長は「集団感染の原因については分からない」と話した。

<<食中毒情報>>

滋賀県は14日、甲良町金屋の仕出し弁当店「八景食品」の弁当などを食べた69人が嘔吐(おうと)や腹痛などを訴えた、と発表した。いずれも軽症という。県彦根保健所ではノロウイルスによる食中毒とみて、同店を15日から4日間の営業停止処分とした。

県によると、11日に多賀町の多賀大社が参拝者らに振る舞うため、同店の弁当やすしの折り詰めを購入した。約200人が食べ、69人が発症したといい、同保健所で感染源を調べている

<<SARS 情報>>

新型肺炎 SARS の感染源とされたジャコウネコ科のハクビシンの流通が再び活発化している事態を受け、広東省政府は13日、SARS が今春に再流行する恐れがあるとの異例の警告を発した。14日付香港経済日報が伝えた。

広東省疾控中心流行病研究所は、広東省内で今のところ SARS 感染例は見つかっていないものの、「ハクビシンを食する機運が再び高まっており、警戒が必要。SARS が今春再発する恐れがある」(羅会明・所長)と警告した。

同省では2004年1月に、ハクビシンの 飼育 屠殺 販売 食用としての提供 を禁止し、違反者には罰金 1,000～5 万元を課すとの罰則を導入した。ところが、同省が今年1月中旬から現在までに、レストラン 1 万軒を調査したところ違反事例が発覚、ハクビ

シン1匹、ハクビシンの冷蔵肉22キロ、アナグマ14匹を押収し、レストラン18軒に行政処分を下した。

同省衛生庁は12日、ハクビシンを食する悪習が再び台頭しているとして、取り締まり強化のため、通報者に報償金1,000円を支払うと発表した。レストランが食用として提供していることが分かれば、衛生許可証を即はく奪するとの姿勢だ。

要予約、こっそり個室で提供

こうした事態を香港の衛生防護センターは「(広東省はハクビシンの)販売や食用を厳格に禁じている」と一定の信頼を寄せているが、同紙独自の調べで、現実にはハクビシンの流通がまかり通っている実態が分かった。

広州市白雲区白雲大道、黄石美食広場のあるレストランで同紙記者が客となって潜入調査したところ、女性店員は要予約、個室での食事のみを条件にハクビシンの料理を提供できると話したという。この店員はハクビシンの仕入れ先を語ることは拒否したが、「他の店では出せない。軍区のトップとの商売だから問題にはならない」と声を低めて説明した。

SARSは02年11月に広東省で発生、03年7月に制圧宣言が出されるまでに全世界で約8,000人が感染し、700人以上が死亡した。

03年に広州の感染者4人について、専門家が調査したところ、うち2人は、ハクビシン料理を出していたレストランの店員と客だった。ハクビシンが感染源であり、人への感染を媒介したとは断定されなかったが、香港大学の調査チームは当時、ハクビシンが原因と発表。広東省はハクビシンの大量処分に踏み切っている。

*** 発行責任者: 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.com

1号～63号までを配信希望の方はメールにて申してください。